

「和田岩坪遺跡発掘調査現地公開の開催について」 (和歌山平野 名草排水機場建設予定地)

近畿農政局和歌山平野農地防災事業所

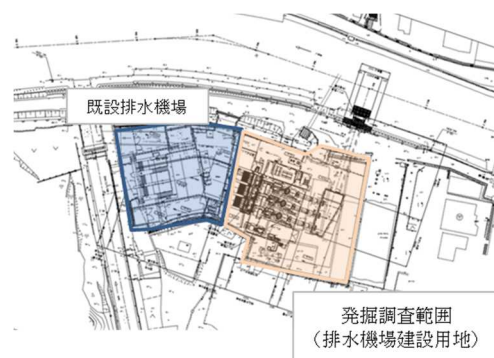
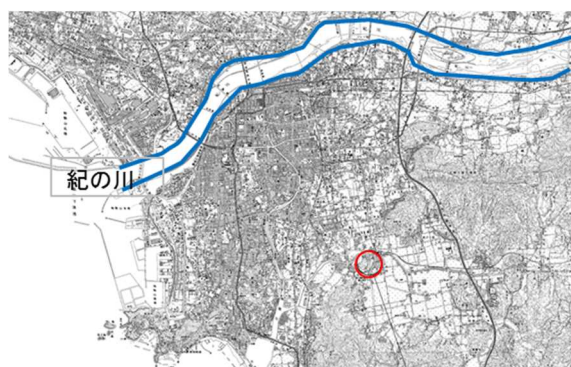
和歌山平野農地防災事業の一環として、和歌山市和田にある名草排水機場の改修を予定しています。改修工事は、旧機場横に新たな排水機場を建設し、旧機場から切り替えるものであり、改修工事に先立って和歌山県文化財センターにより建設予定地における文化財調査が実施されています。今回、発掘調査の状況が近隣住民や一般の方に現地公開されました。

○平成 31 年 2 月 2 日（土）13：00～15：00

○和田岩坪遺跡（名草排水機場建設用地）和歌山市和田地内

○参加者：約 40 名

調査位置及び周辺遺跡状況



今回調査地区は、和田岩坪遺跡内であり、周辺には多くの遺跡が存在する地域です。近傍の過去調査においても多数の土器等が確認されました。

今回調査では、これまでに弥生時代から古墳時代にかけて埋まった自然流路（川）が確認され大量の遺物が出土しました。また、弥生時代の初め頃の土杭や鎌倉時代に使用していた柱穴や溜枡が見つかりました。





現地見学会は天候にも恵まれ、多くの近隣住民の方々の参加があり、弥生時代から古墳時代にかけての土器や、鎌倉時代の建物の柱穴、水を溜めていた溜枧などの出土品について、文化財センターの説明を興味深く聴かれていました。



出土物の一例

文化財センターの現地説明の中では、和歌山平野農地防災事業の協力を得ながら実施していることの紹介もありました。事業所としては、今回の取組が地域の湛水被害を軽減する排水機場をより身近に感じていただく一助になったと考えており、今後も各種取組を通じて地域の方々の理解を得ながら事業を進めていきたいと考えています。

和田岩坪遺跡発掘調査の現地公開資料

主催 公益財団法人和歌山県文化財センター
平成31年 2月 2日（土） 午後1時30分～

このたび近畿農政局和歌山平野農地防災事業 名草排水機場建設工事にともない、和田岩坪遺跡の発掘調査を実施しています。

和歌山平野の南東部には、津秦遺跡・井辺遺跡・神前遺跡・和田遺跡・坂田遺跡・和田岩坪遺跡などの多くの遺跡が存在します。

和田岩坪遺跡の調査は、昭和31年の名草川改修に伴う発見に端を発し、昭和56年の駐車場用地造成に伴う小規模な調査があります。

今回の調査では、西側の調査地から弥生時代から古墳時代にかけて埋まった自然流路（川）を発見し、大量の遺物が出土しました（埋め戻し済み）。また、東側の調査地からは、弥生時代の初めの頃の土坑や鎌倉時代に使用していた井戸や溜枳が見つっています（今回の見学範囲）。

調査期間 平成30年10月22日～平成31年3月8日（予定）

調査の内容

調査で見つかったもの

- 西側の調査地1-1区・1-2区
古墳時代前期（約1650年前）から中期（約1550年前）にかけて埋まった自然流路（川）
自然流路の南側範囲で東西方向の筈（しがらみ）状の木杭列
弥生時代終末期（約1750年前）から古墳時代中期にかけての大量の土器・石器・木製品
- 古墳時代の自然流路の下層には弥生時代前期（約2500～2400年前）から中期（約2000年前）の遺物が出土する自然流路（川）

- 東側の調査地2-1区
弥生時代前期（約2500～2400年前）の土坑
鎌倉時代（約750年前）の屋敷地を区画する堀？
鎌倉時代の井戸
鎌倉時代の溜枳（ためます）：水を溜める施設
鎌倉時代の炭混じりの土で埋まった土坑
鎌倉時代の建物の柱を建てていた柱穴



1-1区の調査地から見つかった自然流路（川）（北から）
（既に埋め戻し済み）

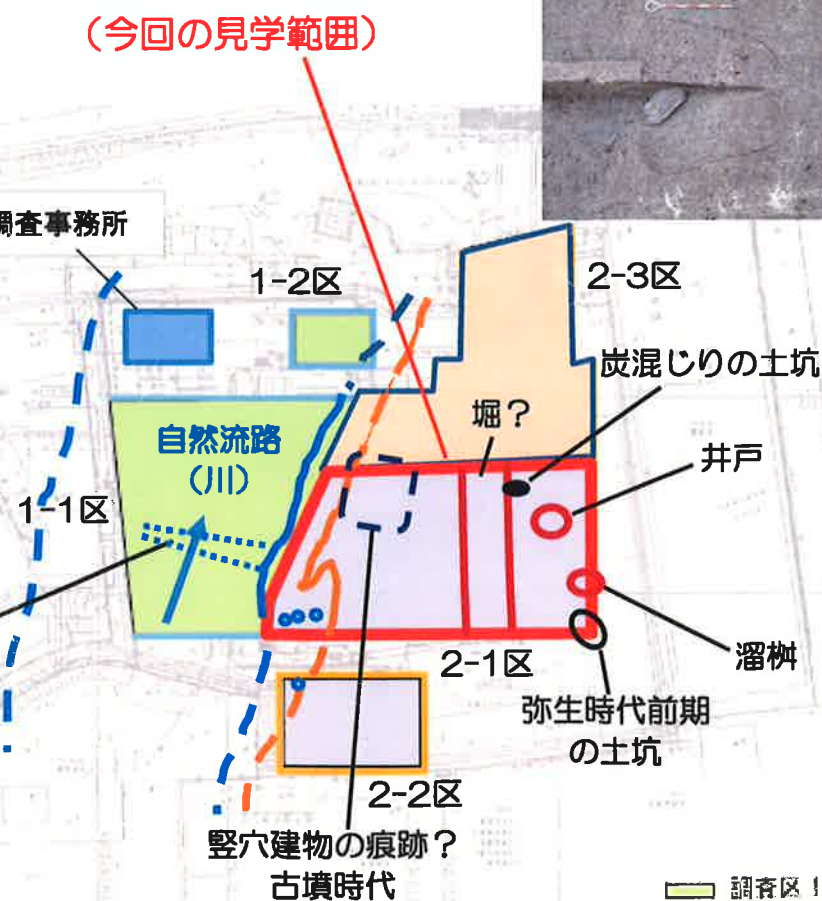


1-1区の調査地から見つかった筈状木杭列（西から）
（既に埋め戻し済み）



自然流路から見つかった土器（北から）

発掘調査事務所



和田岩坪遺跡発掘調査範囲



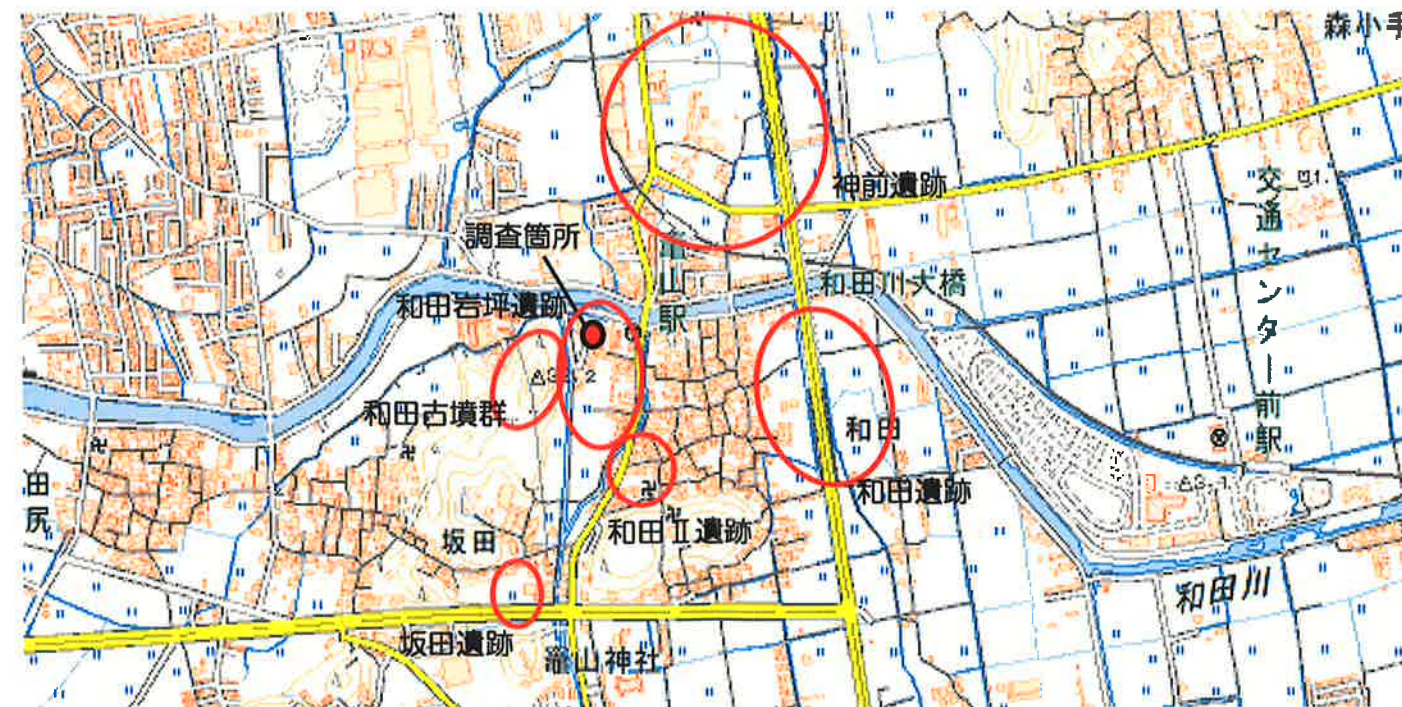
柱穴の根石（南から）
（今回の見学範囲）



井戸の上層状態（東から）
（取り上げ済み）



溜枳（西から）
（今回の見学範囲）



和田岩坪遺跡発掘調査箇所位置図